

このニュースは都レンジャーの活動や、自然の情報などを皆様へお伝えするものです。

どんぐりころころ



山の中を歩いていると足元にどんぐりが目立つ季節になりました。これらのどんぐりをつける木々は自然公園の中で動物や人と重要なつながりを持っています。

どんぐりと環境

どんぐり（堅果類）は、自然がそのまま残されている林や炭などを作るために人が利用していた雑木林に多く見られます。

標高が低い丘陵地から低山にかけてはシラカシやアラカシといった常緑樹やコナラ・クヌギ等が、標高が高い冷温帯の山々にはブナの仲間やクリ・ミズナラが生育しています。



どんぐりと生き物の関わり



・多くの生きもの（哺乳類、鳥類、虫）がどんぐりを食べて生きている

ツキノワグマ、イノシシ、タヌキ、ニホンリス、ムササビ、アカネズミ、カケス、アオバト、チョッキリ等。

食べ物の少ない冬をのりきるための大切な食糧。

どんぐりの豊凶に生きものの生存数が左右されるともいわれている。



・生きものの習性を利用した種子散布を行うどんぐり

ニホンリスやアカネズミ、カケスなどはどんぐりを土の中や幹の割れ目に隠して保存する（貯食）。

それらのうち忘れられ、掘り返されなかったどんぐりが芽を出す。

（生きものが遠くに運んで土に埋めてくれる）

数種の生きものとどんぐりは共存関係にある。

また、どんぐりは森に住む生きものにとって大切な食糧であり、生死を左右している。

どんぐりと人の関わり



○どんぐりが生える林は、昔は薪や炭を採るための薪炭林（しんたんりん）として使われてきました。

○現在でもクリなどを食べる習慣がありますが、縄文人はどんぐりを食材にしていたようで、縄文遺跡からは貯蔵穴が見つかっています。また、近代でも里山では飢餓の際の食料として利用されていたようです。

○高尾山の山頂周辺にみられるカシワ。

かしわ餅を包む葉のほか、食べ物を盛る葉として使われていたようです。